

群馬県JA碓氷安中安中市中野谷コンニャク越冬栽培2年目収穫調査結果報告書

日本肥糧株式会社

- 1) 目的;コンニャク越冬栽培(2年目)においてネバリンの施用効果を確認する。
- 2) JA名;JA碓氷安中
- 3) 生産者名;S様
- 4) 設置場所;群馬県安中市中野谷(面積35.45a)
- 5) 耕種概要;
 - ①品種:コンニャク「みやままさり」
 - ②施肥:慣行施肥に1年目はネバリンを基肥時に100kg/10a施用混合し、2年目には培土時にネバリンを60kg/10a施用した。(越冬栽培)
 - ③植付条件;畝間約116cm、2条植えの株間約30cm、通路幅約30cm
- 6) 収穫調査結果
越冬栽培の2年目の10月24日に試験区、慣行区の中央のブーム道よりそれぞれ7畝目の約3m南側で連続した10個体を採取した。球茎重、生子个数、生子重を測定して比較した。

表1. コンニャク「みやままさり」の越冬栽培2年目のネバリンの施用効果

	球茎重(10個体合計)	生子个数	生子重量(kg)
試験区(ネバリン施用)	18.28 (129)	25	0.44
慣行区(無施用)	14.12 (100)	20	0.31

注) 球茎重の右側の()内の数値は、慣行区を100とした指数を示す。

写真. 1 掘り上げた越冬栽培2年目の「みやままさり」の球茎の状態



7) 結果および考察

- ①掘り上げた球茎の重量は、試験区が最大3.84kg、最小1.00kg、平均1.83kgで、慣行区が最大3.52kg、最小0.46kg、平均1.41kgでネバリン施用区が優っていた。生育のバラツキが両区であるが、ネバリン施用区の方が球茎の肥大が良いものと思われた。
- ②生子についてもネバリン施用により生子个数と重量が多くなるものと思われた。
- ③ネバリンはコンニャクの根張りを良くして、土壤中の養分を十分に吸収させて、葉柄、葉身の生育を促進し、葉緑体(葉色)を維持し、生育後半の光合成の維持、向上に役立ち、コンニャクの増収に役立つことが期待されます。

以上